

最近では、佐藤(正)さん達が、86年6月に吉田大沢を滑っている。

佐藤さんの記録を読むと、随分上まで歩かなくてはならないかも知れないと、考えた。この時期は、スバルラインは、平日、15時～18時、日、祭日～10～18時に開いている。要注意。佐藤小屋は、やっているらしい。5合目の休憩所は、6時から開いた。

5日、5時過ぎに5合目に着いた。快晴だが、台風2号の影響で、風が大変強い。

6時45分まで待った。少し、風が弱くなり、歩き出す。吉田口の夏道を忠実に辿った。

7、5合目頃、3000メートル辺りで、沢にようやく雪が出てきた。運動靴なので、歩き易い。8、5合めくらいで、尾根道にも雪がついているが、靴をはき変えないので、冷たい。突風が時々吹く。よく聞いていると、前触れとして、ひゅうというような音がしてから、体に当たる。スキーヤーが多い。私達と同じ心つもりなのだろう。夏山の前のこまないうちに富士山登山という人達も多い。

頂上には、人が多い。吉田大沢に下りるコルを見に行く。少し急そうだ。お釜の中の雪は、茶色になって、ヒビが入っている。天気はいいが、やはり、風は強く、寒い。

吉田大沢を止め、夏道の右側の雪を下りることにした。下の方が、長そうだからである。

3600メートルまで、歩いて下り、そこからスキーケースを付けた。思ったより斜度はない、雪質は、ザラメである。スプーンカットもなく、波打ったりもしていないで、最高である。久保田さんが、見事な滑りで下りて行く。西川さんは、写真を撮ってくれる。頂上の人達が見ていることを意識している。快調に、大バラ、中バラで下る。2滑りした辺りで、

夏道に帰る所に出るが、下に雪が続くため、少しは、帰るための苦労をするかもしれないが、滑ることにした。石が少し出て、狭くなり、ウェデルンになる。味わいながら滑った。

3100メートルで終りだ。標高差、約500メートルだ。頂度、ザクザクのザレの中に、白いベンキの矢印を見付け、辿り7、5合目の小屋に出た。小さな尾根を1本越えた

吉田大沢を下った人達もいた。やはり3100メートル辺りで終わっていた。下りは、ザックに付けたスキーケースが岩にぶつかって歩きにくい。満足して下った。6合目くらいになると、スバルラインを登って来た人達が多く、林道に出ると、4駆のワゴン、トライアルのバイク、ドライブのカップルなどで、スキーは、場違いだった。

今度は、5合目まで雪の付いているときに登りたい。

タイム：5合目6:45 7合目7:55 8:05 3050メートル9:00 10:

7、5合目10:00 10 頂上11:10 12:00 3600メートル

12:10 3100メートル12:30 40 7合目下1:40 50

バス停2:35

データ：タクシー 7000円、スバルライン、2200円 〔記田中〕

